

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 一努力課題 1) 文学研究科書道学専攻博士課程後期課程において、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせた教育課程とはいえないので、課程制大学院制度の趣旨に照らして、同課程にふさわしい教育内容を提供することが望まれる。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題 （2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） 4-2-3 【目標】《書道学専攻》海外への留学生数を増やすことは専攻の努力だけでは困難なため、2017 年度に目標削除予定。

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	文学研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	講義科目と演習科目（研究指導）のバランス
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	文学研究科は 5 つの専攻から構成される。各専攻は、教育課程の編成・実施方針に基づき、コースワーク（講義科目）とリサーチワーク（研究指導科目・論文作成指導科目）のバランスに配慮しながら、それぞれ独自の教育課程を編成している。以下、専攻ごとの編成状況を述べる（B4-2-5、A4-2-2 第 5 条の 3 別表 1）。 日本文学専攻博士課程前期課程は、専攻科目において古典文学・近代文学などの科目を特殊研究（講義）と演習を組み合わせ開講し、関連講義科目として文化史・比較文学など、外国語として中国語・英語を開講している。2017 年度の開講科目数は、講義科目が 9、研究指導科目・論文作成指導科目が 16 である（B4-2-5）。 博士課程後期課程は、古典文学・近代文学などの科目を特殊研究（講義）と演習を組み合わせ開講し、関連講義科目として文化史・比較文学などを開講している。2017 年度の開講科目数は、講義科目が 7、研究指導科目・論文作成指導科目が 6 である（B4-2-5）。本専攻の古典文学部門については従来、上代文学・中古文学・中世文学・近世文学と時代ごとに細分化されていたが、これを古典文学に統合した呼称に改め、授業科目の整齐的体系的配置を図った。 中国学専攻では、哲学・文学・史学の各分野について、概論的な講義科目と、個別研究に対応する科目を配置している。講義科目では広い分野にわたって各専門家を配置し、知識・知見の涵養が適切に図られている。論文指導は演習科目で行い、研究に必要な文献の読解力の養成も適切に行われている。博士課程前期課程は、専攻科目として中国哲学・中国文学などの科目を特殊研究（講義）と演習を組み合わせ開講し、関連講義科目として国文学などの特殊研究、外国語として中国語・英語を開講している。2017 年度の開講科目数は、講義科目が 8、研究指導科目・論文作成指導科目が 7 である（B4-2-5）。 博士課程後期課程は、専攻科目として中国哲学・中国文学などの科目を特殊研究（講義）と演習を組み合わせ開講し、関連講義科目として国文学などの特殊研究を開講している。2017 年度の開講科目数は、講義科目が 6、研究指導科目・論文作成指導科目が 4 である（B4-2-5）。 英文学専攻修士課程は、英米文学・英語学・英米文化などについてバランスのとれた科目編成を行っている。専攻科目として、英文学・英語学・アメリカ文学・英米文化論など講義科目と演習科目を設置している。専攻科目の「研究方法論」は、英語で修士論文を書くための方法論とアカデミックライティングの向上を目的とする授業で、1 年次に全員履修するように指導している。そのほか、関連講義科目、実習科目（インターンシップ）を置いている。2017 年度の開講科目数は、講義科目が 12、研究指導
-------	---

	科目・論文作成指導科目が5である（B4-2-5）。 書道学専攻博士課程前期課程は、講義科目として、論文作成に必要な知識を身につけさせるもの、作品制作に必須の知識を習得させるものを開講している。演習科目では、実際に多くの史料を読解し論理を組み立てることを養成する科目と、各自に実際に作品を制作させて相互に批評し高めあう科目をバランスよく配置している。専攻科目は中国書学・日本書学・書跡文化財学などの科目を講義と演習形式で開講し、関連講義科目では中国哲学ほかを、外国語科目として中国語・英語を開講している。2017年度の開講科目数は、講義科目が15、研究指導科目・論文作成指導科目が7である（B4-2-5）。 博士課程後期課程では、中国書学・日本書学・書跡文化財学の4科目をいずれも研究指導科目・論文作成指導科目として開講している（B4-2-5）。 教育学専攻修士課程は、「教育思想・制度」「教授・学習」「認知・発達」の3分野について、バランスのとれた科目を設定している。専攻科目の演習は3分野の基礎的知見を修得する科目、研究指導は論文作成指導を主たる目的とする。また、導入科目として、学校教育現場で生じている具体的な現象を取り扱う実践総合研究、関連講義科目として、個々の教育の事象に関する専門的科目である教育思想・生涯学習・教科教育などの特殊講義が配置されている。2017年度の開講科目数は、講義科目が18、研究指導科目・論文作成指導科目が11である（B4-2-5）。
4-2-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （1）必要な授業科目の開設状況について【×】 具体的事例： （2）順次性のある授業科目の体系的配置について【×】 具体的事例： （3）講義科目と演習科目（研究指導）のバランスについて【○】 具体的事例：書道学専攻博士課程後期課程のカリキュラムを改正し、講義科目を設置することが2017年4月文学研究科委員会で承認、同5月理事会で承認された。
4-2-2	文学研究科は、教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している（A4-2-2 第5条の3別表1、A4-2-16、A4-2-25）。各専攻の教育内容は次のとおりである。 日本文学専攻は、古典文学Ⅰ（上代・中古）・古典文学Ⅱ（中世・近世）・近代文学・日本語の4つのセクションを設けている。各セクションに、1ないし2の講義科目（「古典文学Ⅰ特殊研究」等）と1ないし2の演習科目を置き、偏りなく日本文学・日本語学の知識を習得できるように配慮している。さらに、関心に応じて履修できるように、「中国文学研究」「文化史研究」「比較文学研究」、外国語などを関連科目として用意している。博士課程前期課程では、原則として4科目以上の講義科目と3科目以上の演習科目の単位を取得しなければならない。1名の演習担当教員の指導のもとで、修士論文の作成に当たる。 博士課程後期課程では、1名の演習担当教員の指導のもとで、博士論文の作成に当たる。 教育内容の適切性に関しては、専攻協議会で協議し、改善に努めている（B4-2-23 d2-表19）。 中国学専攻は、哲学・文学・史学の3つのセクションを設けている。各セクションには特殊研究と演習とを複数置いて、哲学・文学・史学の各分野の諸問題が、幅広く学べるように配慮している。とりわけ、古典文献読解能力の涵養につとめている。また関連講義科目「国文学特殊研究」「文化史特殊研究」および外国語科目を置いて、様々なニーズに対応している。博士課程前期課程では、いずれの分野を専攻とする場合にも、少なくとも1科目以上「哲学」「文学」「史学」の3分野から履修することを求めている。また専攻する分野の「演習」科目において、あわせて修士論文制作の手順・方法の指導を行っている。 博士課程後期課程では、演習科目を履修するとともに指導教員の下で、博士論文制作を目指す。 教育内容の適切性に関しては、専攻協議会で協議し、改善に努めている（B4-2-23 d2-表19）。 英文学専攻修士課程は、学部で培った知識をもとに専門性を深め、英文学・米文学・英語学・英米文化の4つの分野で、学際的な視野に立ち、総合的な研究能力を高めることを目指している。4つの分野の特定の科目群に偏ることなく、広く学際的に学び英語文化圏の高度の知識を修得することを目指している。これら4分野の学習内容は、専門分野の教員による全体指導と個別指導を通じて、学生の自発的な研究を促し創造的な修士論文作成へとつながることを目指している。 上記4つの分野の開講科目は、「英文学特殊講義（一）～（四）」「英文学演習（一）～（四）」「英語学特殊講義（一）～（二）」「英語学演習（一）～（二）」「アメリカ文学特殊講義（一）～（二）」「アメリカ文学演習（一）～（二）」「英米文化特殊講義（一）～（二）」「英米文化演習（一）～（二）」である。これに加え、「研究方法論」によりテーマの選定、文献検索と資料の活用、英語論文作成等についての徹底的個別指導による添削・論文作成指導を行っている。これらの科目群により修得した専門知識と創造的思考力は海外留学によって深められ、社会において活かせる人材を育成することが目的である。また、「インターンシップ実習」については、都内にある外国人学校を訪問し、インターンシップ実習実施の可能性を模索した。さらに夏季休暇前に11月のシンポジウムに向けて中間発表会を実施し、その後のPaulownia Reviewへの原稿執筆指導として、英文原稿の提出とその添削指導を繰り返している。 本専攻の特色のひとつは、毎年、学生はイギリス、アメリカを中心とした大学や研究所等の研究機関に留学し研究をしていることである。学生は作成中の修士論文の内容を海外の研究機関で更に深めることができている。 教育内容の適切性に関しては、専攻協議会で協議し、改善に努めている（B4-2-23 d2-表19）。

	書道学専攻は、書跡文化財・書学・書作をコアとする学術領域からなり、「書跡」に対して歴史的価値と芸術的価値の双方を考究するため、中国書学系・日本書学系・書跡文化財系の3つの領域が相互に密接な関係を保ちながら、それぞれの立場で学術研究の進展を図ることを目指している。本専攻は、各学術領域を専門とする9名の専任教員が演習・講義・論文作成指導に当たっている。博士課程前期課程では、演習科目に「中国書学演習」「日本書学演習」「中国書法演習」「日本書道演習」「書跡文化財学演習」があり、必修に位置づけている。書道学を専攻する学生たちは、研究テーマに即した演習担当の指導教員の下で、専門分野に関する研究を深め、修士論文および修了作品にまとめていく。また、「中国書学・書法特殊研究」「中国書法文化特殊研究」「日本書学・書道特殊研究」「日本書道文化特殊研究」「文化財保存学特殊研究」「文化財保存修復特殊研究」ほか、関連の講義科目が選択必修である。 博士課程後期課程では、「中国書学演習」「日本書学演習」「書跡文化財学演習」の演習科目が必修である。専攻する学生たちは、研究テーマに即した演習担当の指導教員の下で、専門分野に関する研究を深め、博士論文にまとめていく。 本専攻の大きな特色は、前期課程において修了作品として提出した作品を中心とし、学外的美術館で作品発表を行うことである。 教育内容の適切性に関しては、専攻協議会で協議し、改善に努めている（B4-2-23 d2-表 19）。 教育学専攻修士課程は、2つの目的をもって設置された。それは、(1)教育の現実や実際に深い理解を有する教育学研究者の養成、(2)高度な知識や技能をもった教育者の養成、である。(2)に関しては、学部を卒業して進学してくる者を新規の教員として養成するほか、現職教員を受け入れて、その研究・教育力量をレベルアップする再教育・再研修の場としても機能している。 本専攻は、研究と実践とを様々なかたちで架け橋したカリキュラムにより、今日の日本の教育界が求めるすぐれた研究者と教員を輩出している。 上記の目的を実現するために、本専攻では3つのコース（教育思想・制度、教授・学習、認知・発達）を設け、教育学・心理学・教科教育学・図書館学などを専門とする13名の専任教員が講義、演習、研究論文作成指導に当たっている。修士課程1年時にはそれぞれのコースへの入門、導入科目として「教育思想・制度演習」「教授・学習演習」「認知・発達演習」を設け、研究へのいざないとしている。また、研究指導については1年次より「教育学研究指導Ⅰ」、そして2年次には「教育学研究指導Ⅱ」を通して丁寧に指導する体制が整っている。このような体制の下で院生は、指導教員の指導を通して、各自の専門分野のテーマに関する研究を深め、論文にまとめていく。 学部からの大学院への進学者の増加と、現職教員の増加により、実践的でなおかつ基礎的研究を踏まえた研究論文執筆が可能となるよう、論文指導体制を整えている。
4-2-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供について【○】 具体的事例：英文学専攻では、都内にある外国人学校を訪問し、インターンシップ実習実施の可能性を模索した。
4-2-3	文学研究科の国際化に対応した教育については、専攻の専門性によって、それぞれ異なった状況にある。5 専攻の国際化に対応した教育についてはそれぞれ以下の通りである。なお、文学研究科主催の海外研修等は行っていない。 《日本文学専攻》 日本文学専攻は、教育課程における国際化の推進は行っていない。 学生の国際交流の推進については、奨学金留学生は2014年度から2016年度の派遣実績はない。交換留学生は2014年度に1名、2015年度に1名受け入れている。短期語学研修、日本文学専攻主催の海外研修等は行っていない。一般留学生は2014年度に1名、2016年度に1名受け入れている。 《中国学専攻》 中国学専攻では、教育課程において国際化を推進することは、必ずしも必須とはしていないが、その他の機会を設定して国際交流を積極的に推進している。海外（中国・台湾）から講師（通年1名）を招聘して講演等を毎年実施し、全学に公開している。 学生の国際交流の推進については、奨学金留学生は2014年度から2016年度の派遣実績はない。交換留学生は2014年度に1名受け入れている。短期語学研修、中国学専攻主催の海外研修等は行っていない。一般留学生は2014年度から2016年度の受け入れ実績はない。 《英文学専攻》 教育課程における国際化の推進については、外国留学等に効果的に対応して英米語の運用能力の強化を進めると指導と同時に、留学制度を積極的に利用するようなサポートを行っている。 学生の国際交流の推進については、奨学金留学生は2014年度に2名派遣している。交換留学生は2014年度から2016年度の受け入れ実績はない。短期語学研修、英文学専攻主催の海外研修等は行っていない。一般留学生は2014年度から2016年度の受け入れ実績はない。

	《書道学専攻》 教育課程における国際化の推進については、毎年実施している特別講義に海外（中国・台湾）から講師を招聘して講演等を行ってもらう機会を設けている。 学生の国際交流の推進については、奨学金留学生は2014年度に2名派遣している。交換留学生は2014年度から2016年度の受け入れ実績はない。短期語学研修、書道学専攻主催の海外研修等は行っていないが、学部学科主催短期海外研修に2014年度に3名派遣している。一般留学生は2014年度に3名、2015年度に4名、2016年度に2名受け入れている。 《教育学専攻》 教育課程における国際化の推進については、専攻の科目編成の内に国際化を意識した科目（比較教育特殊講義あるいは教育人類学特殊講義）を導入することを検討している。 学生の国際交流の推進については、奨学金留学生は2014年度から2016年度の派遣実績はない。交換留学生は2014年度から2016年度の受け入れ実績はない。短期語学研修、教育学専攻主催の海外研修等は行っていない。一般留学生は2014年度に3名、2015年度に1名受け入れている。
4-2-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （１）教育課程における国際化の推進について【○】 具体的事例：書道学専攻においては、留学生対応をスムーズにすべく、2018年度より全ての科目にセメスター制を導入する。 （２）学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進について【×】 具体的事例：
4-2-4	日本文学専攻、中国学専攻、英文学専攻、書道学専攻 教育内容の適切性に関しては、専攻協議会で協議し、改善に努めている（B4-2-23 d2-表 19）。 教育学専攻 本専攻の教育課程の適切性については、教育学専攻のカリキュラム委員会、研究指導委員会、研究企画委員会などを通して改善の余地がないか、議論を行っている（B4-2-23 d2-表 19）。
4-2-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 教育課程の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-2-1	
4-2-2	
4-2-3	
4-2-4	

【改善すべき事項】

4-2-1	
4-2-2	
4-2-3	
4-2-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	4-2-1 《日本文学専攻》 2015 年度より、本専攻のカリキュラムのうち、上代文学・中古文学・中世文学・近世文学を古典文学に統合した呼称に改正する。	カリキュラム改正が実施されている。	→			S	A	
	4-2-1 《中国学専攻》 中国学専攻のなかに「史学」分野を設置したことの意味を、社会科学における史学との違いを、明示し認知さ	中国学専攻のなかに「史学」分野を設置したことの意味を、社会科学における史学との違いを、明示し認知されている。				S	S	

	れる。	
	4-2-2 《英文学専攻》 英語教育関係の科目の開講を検討する。	英語教育関係の科目の開講を検討し、開講するかどうかが決定している。
	4-2-2 《英文学専攻》 実習科目（インターンシップ実習）への参加者を呼びかける。	実習科目（インターンシップ実習）への参加者が増えている。
	4-2-2 《教育学専攻》 留学生を含め修了生の進路について近年の実績一覧を作成し在院生の指導にいかす。 ※中期目標を修正する（2017年度に追加した）	進路実績一覧が作成されて在院生に周知されている。
	4-2-2 《教育学専攻》 編成科目外にも留学生を重視した取り組み（学校見学会）を定着させる。 ※中期目標を修正する（2017年度に追加した）	学校見学会が実施されている。
	4-2-3 《書道学専攻》 海外への留学生を増やす。 ※海外への留学生数を増やすことは専攻の努力だけでは困難なため、削除する（2017年度に削除した）	留学生が増えている。
	4-2-3 《教育学専攻》 留学生の修了後の進路の開拓をする。 ※中期目標を修正する（2017年度に削除した）	留学生の修了後の進路が開拓されている。
	4-2-2 《教育学専攻》 カリキュラムの見直し。 ※中期目標を修正する（2017年度に削除した）	教育学専攻協議会で検討を開始する。
16年度 目標	4-2-2 《英文学専攻》 実習科目（インターンシップ実習）への参加者の呼びかけを始める。	実習可能な英語教育施設、学校を検討している。
	4-2-3 《書道学専攻》 海外への留学生を増やす。	留学生が増えている。
	4-2-2 《教育学専攻》 留学生と修了後も連絡を継続するための方策を策定する。また、修了後を見通して、研究生段階からの指導の一貫性に留意する。	それぞれの方策や対応が具体的に専攻協議会で協議・報告されている。
	4-2-2 《教育学専攻》 小専攻区分のあり方を含め、カリキュラム構造の見直しを検討する。	当面の見直しの方向づけの検討が進み、それに沿った具体策の一部は実施されている。
17年度 目標	4-2-2 《英文学専攻》 実習科目（インターンシップ実習）への参加者を呼びかける。	実習科目（インターンシップ実習）の参加者がいる。
	4-2-2 《教育学専攻》 留学生を中心に研究生段階からの各自の指導カルテを作成する。	指導カルテのひな型が作成され、試行的運用が行われている。

		S	S	
		B	B	
		—	B	
		—	S	
		A	—	—
		B	—	—
		A	—	—
→		S		
		A		
		A		
		B		
→			B	
			C	

4-2-2 《教育学専攻》 留学生対応と小学校専修免許課程対 応を調和させたカリキュラム改編の プランを作成する。	カリキュラム改編プランが作成・合意さ れ、実施に向けての手續が進行している。
--	---

			A	
--	--	--	---	--

IV 評価専門委員会所見

4-2-1 4-2-2【現状】 各専攻の教育課程の体系と教育内容が明快にかつ詳細にわたり記述されています。

4-2-2【現状】 「教育内容の適切性」の確保に関して、どの専攻も同一の記述（「専攻協議会で協議し、改善に努めている」）になっていますが、各専攻が具体的にどのように問題点をあぶり出し、それを改善するのが明確に記述されていません。各専攻協議会における具体的な方策の記述が求められます。

V 所見への対応

4-2-2【現状】 日本文学専攻では、学生の研究活動の進展状況（修士論文・博士論文・学術出版物への論文執筆）を、専攻協議会にて協議・確認している。その上で、学生の目指す研究分野に留意し、適切な指導をおこなうよう心がけている。

4-2-2【現状】 中国学専攻では、学生の目指す研究分野と論文指導を担当する教員の専門分野とが整合性がとれているか、学生が専門分野を中心に中国学に関する幅広い専門知識と技能（漢文・中国語の読解など）を修得できているかを、専攻会議において協議している。

4-2-2【現状】 英文学専攻では、学生の希望する専攻分野と履修する教育課程の学修内容が同じものになっているか、年度末の面談を行っている。学生の専攻内容が修了後の進路との整合性を検討している。インターンシップの可能性をも検討している。

4-2-2【現状】 書道学専攻では、学生の目指す研究分野と論文・制作指導を担当する教員の専門分野との整合性がとれているか、また、学生が専門分野を中心に書学書道史に関する幅広い専門知識と書作の技術を修得できているかを、専攻協議会において協議している。

4-2-2【現状】 教育学専攻では、諸事情を勘案して科目編成の大幅再編を行なったが、在籍院生それぞれの必要をよりよく満たすべく、カリキュラムの最適運用のための相談を年度替わりの時期に個別院生ごとに行なっており、それらを専攻協議会に報告・協議している。

VI 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-2-2 大東文化大学大学院学則 《既出》A1-2

A4-2-16 大東文化大学・大学院シラバス（CD-R）

大東文化大学ホームページ（Web シラバス）

<http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html>

A4-2-25 2017（平成 29）年度 文学研究科時間割表

B4-2-5 2017 年度文学研究科科目編成表

B4-2-23 大学データ集 《既出》B1-22

〔追加資料〕